2025.8.8 研究協力者と協力し合うために

先日、鯖江のこども園に訪問にいきました。
午後のお昼寝後の少しの時間、園長先生や副園長先生と話をさせていただきました。
副園長先生は、今年度本園の研究協力者でもあります。6 月の研究集会にも参加してくださいました。
本園の研究協力者は、市町の担当課や協会の方と相談の上依頼をしています。今年は福井県内の公私立８園から来ていただいています。園に来ていただくのは、6 月、10 月、11 月の年 3 回。しかし、6 月の研究集会当日は、ほとんど話をする時間はありませんでした。また、こちらから協力園に伺うことは今までほとんどありませんでした。そこを見直していこうとしています。

本当の研究協力とは何なのか。
こちらに来ていただき、本園の子供の姿だけ見て語り合うことだろうか。本園の役割とは何なのか。
決して保育のモデルになることを目指しているのではなく、地域の幼児教育施設のハブとなり「学びのネットワーク」を形成したいのです。

そのためにまずは何をすべきか。福井県の幼児教育支援センターと連携しながら、市町アドバイザー養成研修の一端も担っています。また、福井市の先生方を対象に、福井市と連携して見合いっこ保育の場として、保育を見合い語り合う場を作っています。これまでの市町や県との連携はもちろん大切にしながら、 毎年お願いしている研究協力者とその園との連携の在り方を探っていこうと思い、まずはそれぞれの園に伺うことから始めようとしています。

園に伺って話をさせていただくと、「そうそう！」と共感したり、「なるほど」と納得できたりする部分がたくさんあります。お互いの園の現状について、園児募集について、こども園だからこそ０～２歳児についていろいろお話を聞くこともでき、育ちの連続性について、０歳からの視点で考えることができました。
園の中を少し見せていただきました。すると、本園の研究集会を参観くださった年長担任の先生が、「去年見に行ったときの環境を参考に、生き物コーナーを子供たちと作っているんです！」と教えてくださいました。とてもありがたい。そして、製作素材の置き方や環境などは参考になる部分もいっぱいありました。
さらに、昨年本園で実習をした学生が、今年度からこの園で担任として働いていて、元気に頑張っている姿に出会うことができ、本当にこちらも励みになります。次は本園の他の職員と一緒に、午前中の保育も参観させてくださいとお願いし、帰途につきました。短い時間でしたが、本当にいい時間でしたし、なにか本園の在り方のヒントをいただいたようにも思えます。

地域の幼児教育にどう寄与できるか、ハブとなり「学びのネットワーク」を形成できるか。大学や協力者の先生方、そして園に来ていただくいろいろな先生と話しながら、これからの附属園の役割について考え続け、試行錯誤し続けていきたいと思います。